小川原作品とともに、当館に寄託されている穂井田日出麿（1938-・古平町在住）作品を紹介します。倶知安で65年続く麓彩会展の創立メンバーである穂井田日出麿は、10代の頃よりその画才を発揮し、小川原脩とともに羊蹄山麓地域のみならず後志、そして北海道の美術をけん引してきました。北漁場で働く「はずし娘」を長年題材とし、厳しい自然のなか生きる姿を描き続けています。小川原脩もまた、無心に祈るチベット巡礼者や家族の姿を幾度となく取り上げ、素朴に、自然に寄り添い生きる人々を描いています。この倶知安の地で交流を深め、それぞれに「生」への想いを絵画へと込めた画家ふたりの作品をご覧いただきます。

小川原脩《街中で》 1982年

小川原脩《天》 1983年

小川原脩《祈る女》 1983年

穂井田日出麿《はずし娘》 1975年

穂井田日出麿《はずし娘さん》 2006年

穂井田日出麿《生きる》 2011年

小川原脩 Shu OGAWARA（1911-2002）

北海道・倶知安町生まれ。東京美術学校（現・東京藝術大学）西洋画科卒業。
美術学校在学中に「納屋」（1933年）が帝展に入選。美術学校卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。後に、軍の命により戦争記録画を制作。戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会（全道展）」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出麿らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞、この年小川原脩画集を出版（共同文化社）。倶知安町に定住してから60数年もの間、遥かなるイマージュを求め続けた。70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドで創作への新境地を拓いた。

作者名	作品題	制作年	技法・材料	サイズ（cm）
小川原脩	街中で	1982	油彩・キャンバス	65.2×91.0
	巡礼	1983	油彩・キャンバス	91.0×65.2
	天	1983	油彩・キャンバス	162.0×130.3
	祈る女	1983	油彩・キャンバス	116.7×91.0
	白い僧院	1984	油彩・キャンバス	91.0×116.7
	水その俗	1984	油彩・キャンバス	194.0×130.3
穂井田日出麿	はずし娘（左）	1975	油彩・キャンバス	130.3×162.0
	はずし娘（右）	1975	油彩・キャンバス	130.3×162.0
	はずし娘	2005	油彩・キャンバス	162.0×162.0
	帰路	2005	油彩・キャンバス	130.3×162.0
	はずし娘さん	2006	油彩・キャンバス	162.0×162.0
	生きる	2011	油彩・キャンバス	130.3×162.0

※作品はすべて小川原脩記念美術館蔵

穂井田日出麿 Hidemaro HOIDA（1938-　）

北海道・江丹別村（現・旭川市）に生まれ倶知安町で育つ。倶知安高校在学中に見た全道美術協会移動展で小川原脩らの作品に影響を受け、絵画を本格的に始める。高校三年の1955年、第10回全道展に初入選。その後北海道学芸大学旭川分校美術コースに入り、絵画に邁進する。1957年、倶知安高美術部OBによる「ZO展」を開催、翌58年に麓彩会展へと発展、創立に参加。1978年、第1回北海道現代美術展（道立近代美術館）、安井賞展推薦。1980年、文化庁現代美術選抜展。1981年、フランス美術賞展。1983年、一陽会会員（～2010年）、北方のイメージ北海道の美術'83（道立近代美術館）選抜、余市町立黒川小学校陶板外壁画を制作。1999年、全道展会員。2010年、響文社より「北のアーティストドキュメント2・穂井田日出麿」発刊。2012年、「穂井田日出麿展」（小川原脩記念美術館）。初期は抽象的な作品、豊かな色彩の港の情景を描いていたが、やがて北の漁場でスケソウダラを網から外す仕事をする"はずし娘"を題材とし、海の豊かさと厳しさの中にくりひろげられる生の営みを描く。古平町在住。

◉同時開催（第1展示室）

小川原脩展「アジアの大地」

3月4日（土）～7月2日（日）

小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006　北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1（0136-21-4141）
http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/